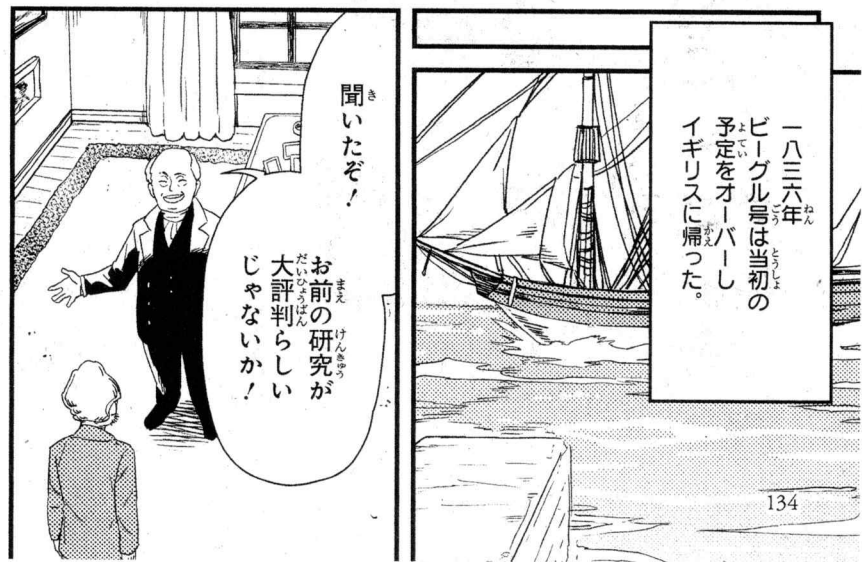


● Culture



角川まんが学習シリーズ「世界の歴史11 ヨーロッパの自由主義とアジアの動揺」©KADOKAWA CORPORATION 2021 ダーウィンの『種の起源』を著すまでの様子などが描かれる

自宅に籠もり研究

ダーウィンは、大学に籍を置かず在野で研究したことはあまり知られていない。南米ガラパゴス諸島を訪れ、進化論を着想するきっかけを作ったビーグル号への乗船も自費だった。ロンドン郊外の「ダウンハウス」と呼ばれる自宅で研究を続けた。

鈴木准教授によれば、大学に職を得ることもなく、生活の糧を得るために働かずに研究を続けられたのは、経済的に恵まれた環境にあったからだという。ダーウィンの母方の祖父は、陶磁器で有名なウェッジウ

ッド社の創業者だった。父は医師として成功し、投資によっても財産を増やしたという。また、ダーウィンは持病で体調がすぐれなかったこともあり、社交の場に出ることを控え、自宅に籠もって研究することが多かった。

研究を支えたのが、手紙による情報収集だった。鈴木准教授によれば、研究者に手紙を書き、アカデミックな交流を続けたという。鈴木准教授は「ダーウィンは丁寧に相手をおだてたり、相手のプライドをくすぐ



ダーウィンが過ごした「ダウンハウス」＝鈴木准教授提供

たりしながら、自分に必要な情報を引き出すすべてを身につけていた。孤高の科学者ではなく、使えるメディアを駆使し、ネットワークを広げていた」と評価する。

* 歴史研究が深まるにつれて世界史のトピックは見直されています。「世界史アップデート」では、研究成果を反映した最新説を、広く知られた従来説と比較しながら紹介します。「日本史アップデート」と隔週で掲載する予定です。